

第5回学区制審議会会議録

■会議の日時：令和5年9月14日 15時から16時25分

■場所：瑞浪市総合文化センター 3階 講堂

■出席者：学区制審議会委員：

有賀秀雄、小倉弘次、安藤昇、加藤博一、渡邊勝、早瀬邦夫、
中村鈴彦、小木曾峻一、加藤博之、永井研、安藤裕子、
二瓶茂智、水向裕樹、渡部国博、加納礼爾、薄井義彦、堀幸恵、
堀部なを、黒沢実

欠席者：渡邊悟、河北卓也、藤田瑞穂、今瀧さをり、成瀬広之

事務局：伊藤慶和教育長、林恵治事務局長、

滝川直樹事務局次長兼学校教育課長、兼松美昭教育総務課長、
堀田奈々学校教育課課長補佐兼教育支援係長、
山崎美和教育総務課課長補佐兼総務係長

■議事：

1. 教育長あいさつ

こんにちは。大変お忙しい中、審議会にご参加いただきまして、有り難うございます。限られた時間での審議になると思いますが、よろしくお願い致します。

7月末に教職員対象の夏季研修を15講座開催しました。今年度から新たに、複式学級での授業をどうしていくかということに関わる講座を開きました。たくさん先生方が集まってくださり、40数名の参加で講座を実施しています。徐々に、令和7年度の複式学級に向けて、慣れていけるといいと思っています。

本日は、瑞浪南中学校の単学級出現に関わる話が話題の中心になるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

朝晩涼しくなりましたが、まだまだ残暑厳しい中ご参集いただきまして、有り難うございます。

少し話はそれますが、陶町の町づくりの方にも携わっていきまして、瑞浪高校の地域連携プロジェクトが、今年度、授業の一環としてやっていただけることになり、そのプレゼンテーションに2日に伺います。以前、大湫のほうで、QRコードを作るなどの活躍をしてくれています。陶地区も人口

減少ということで、少しでも交流人口を増やして、例えば観光に来ていただいた方が陶町っていいなあと思って移住定住していただければいいなという希望を持ってやっています。なかなか思いどおりにはいかないと思いますが、そういった地道な活動で、瑞浪市全体の人口が少しでも増えれば、こういった学区の問題や福祉の問題も起こらなかったわけですが、そういう活動を通して、皆様も多方面にご活躍をお願いしたいと思います。

前はかなり活発なご意見をいただきまして、前回からの経過を含めて今日の会議を進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

事務局：

本日の会議は、委員 24 名中 19 名の出席で、開催要件を満たしていることをご報告します。

それでは、これより加藤会長に議事の進行をお願いします。

3. 議事

議長：

議事に入る前に、瑞浪市の情報公開条例第 23 条の規定により、本日の審議会は公開となっておりますので、本日傍聴希望者 1 名ありますので、これを許可します。以後議事の進行をしますので、活発な議論をよろしくお願いします。

前回の会議より瑞浪南中学校の単学級出現による対応について、事務局の説明、意見交換を行ってきました。前回に引き続き意見交換を行ってきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

前回の会議から事務局より何か報告事項はありますか。

事務局：

前回の会議で、複式学級の説明を幼稚園等で行ったように、単学級についての説明も出来ないかというご意見がありました。これについて会議終了後、陶町連合区会長さんが、独自でアンケートを取って地域のご意見をまとめられたので、現時点では説明に行かなくて良いとのご連絡をいただきましたので、そういったことは行わずに今回の会議を開催させていただいていることをご承知おきください。これについては、後ほどお話しいただけるものと思っておりますが、事務局としては資料 1 を配布させていただいています。

事務局より資料 1 について説明。

議長：

有り難うございました。

今回は、意見交換ということで、皆様、活発な意見をお願いします。

前回の意見交換の意見をまとめると、学区の見直しについては、小学校区と中学校区が変わってしまうのは反対という意見が多くありました。学園台の子は学区を選べるようにしてはどうかという意見も中には出ています。

部活動については、加入自由化となり、部活動に加入しない生徒が増えてきている、瑞浪南中学校に限らず、団体競技については学校単位でチームが編成できない種目が出てきているという報告もありました。今後、複数校での合同の方向で進んでいくことが予想されています。部活については別問題として、学校規模に関らず今後地域移行が進められるであろうという方向になっています。

コミュニティ・スクールについては、コミュニティ・スクールを進めるうえで、瑞浪南中学校は現状でも稲津と陶の調整が必要となっています。今後更に学校と地域との関りが増える中で、できれば今の状態で進めて行きたいといった意見がありました。

このような前回の意見を踏まえ、本日も意見交換をお願いします。

先ほど事務局からご説明があったように、前回の会議以降、陶地区において連合区長会長さんが、保護者のご意見を伺うために、アンケートを行われたとお聞きしています。その結果の紹介を含めて、ご意見がありましたらお願いします。

委員：

本日のこの会議に際し、自分自身の発言の参考資料として、陶幼児園保護者代表のご助言をいただき、陶幼児園の園長さんをお願いをして、将来、単学級になる可能性のある、幼児園の保護者 26 世帯を対象に、前回の委員会で配布していただいた、メリット・デメリットを記載した用紙とともにアンケートをお願いします。前回のアンケートは 4 年度に小中学校、幼児園を対象にしたものと聞いておりますので、単学級になる可能性の高い、今の幼児園の世帯、26 世帯に対してのアンケートを基に発言したいということで、今回のアンケートに至りました。

アンケートは 2 項目、1 つ目は、単学級について、項目としては、賛成、どちらかといえば賛成、どちらとも言えない、どちらかといえば反対、反対の 5 項目のいずれかに丸を付けていただき、理由を書いていただく方向でお願いします。26 世帯の内、14 世帯の方の回答をいただきましたので、その結果を報告させていただきます。単学級に対して賛成 3、どちらかといえば賛成 1、

どちらとも言えない8、どちらかといえば反対2、反対0という結果でした。

2つ目は、教育委員会の関係者からの説明について、聞きたい、どちらでもよい、聞きたくないの3項目について丸を付けていただき、理由を書いていたものです。結果としては、聞きたい5、どちらでもよい9、聞きたくない0という結果でした。

アンケートの結果並びに書いていただいた理由を踏まえ、個人的な感想と意見ですが、まず1、最初の2週間で10の回答しかなかった。2、最終的に集まった数が約半数であった。3、単学級に対してはどちらとも言えないという回答が1番多く57%、説明会に対してどちらでもよいという回答が1番多く66%、それぞれの理由を読ませていただいて、この学年の保護者については、小学校の複式の問題もあり、中学校に対しては、まだまだ身近な問題ではないのではないかという印象を感じました。

後は個人的な思いですが、また1つの側面として、まだまだ未熟な中学生に対して、今2つの学校が一緒になっただけでも馴染めない子どもが出ていていると聞いており、3つ以上の学校が一緒になれば、もっと馴染めない子が増えてくるような気がします。ましてや、1番少ない集団の陶の子どもたちとしては、今以上の障害になるのではないかと感じます。

以上のことから、単学級になっても瑞浪南中学校を残していただきたいというのがわたしの考えです。

議長：

有り難うございました。

独自のアンケートということで、令和11年から瑞浪南中学校単学級が出現しますので、ちょうどその年ですと今の幼稚園の子が入学しはじめる年ということで、陶の連合区長さんは、幼稚園でアンケートをとるという方法を取っていただいたわけですが、説明の中にもありましたとおり、まだまだ先のこと、幼稚園の保護者の方に中学校のことを聞いても、ピンとこない方もいらっしゃるかもしれませんが、その辺、園長さんいかがでしょうか。

委員：

まだまだ小さいので、まず小学校ということが目標になっています。前回のときに、小学校での複式に対して、教育長さんをはじめ教育委員会の方々に来ていただいて、話をさせていただいたことで、すごく保護者の方は安心されて、話を聞いて良かったという意見がたくさんありました。一つ上がった小学校の問題を今感じてみえるところなので、中学校に関してはその後かなあというように感じます。

議長：

有り難うございました。

小学校は複式でということが、この審議会で概ね決まったわけですが、そのことに対しては、今の幼稚園の保護者の方は別に保育園に言ってみえることはないですか。

委員：

何か話になることは今のところありません。不安は今もあるとは思いますが、話をしていただいたことで、不安を少し取り除かれてはいると思います。

議長：

有り難うございました。

説明によって大分不安も解消されたということですが、今後、実際に複式が始まるまでには、教育委員会としても何回か丁寧な説明が必要かと思われますのでよろしくお願いします。

単学級は単学級として、陶の中でも一部の方は、やっぱり大きいところだとされる方もあると思うので、いま直ぐではないが、時期が来たら全体で学区を考えるとこの検討は是非お願いしたいと思います。

前回の議事録も届いているかと思いますが、皆さんから色々なご意見を伺って、議事録を読み返して、何か意見はありますか。

委員：

統合や学区を考えるうえで、その該当となる子どもや地域の保護者の皆さんの思いを踏まえながら考えていくことが大変大切になると思います。瑞浪南中学校については、統合して間もないということもあり、地域の皆さんはこの間統合したばかりなのという思いを持たれるのではないかと思います。

議長：

有り難うございました。

瑞浪南中学校は平成28年に統合しましたので、年数はたっていますが、それでもまだ、その統合の際に多少の問題点もあったということもありましたので、そういった中で、更にまた統合となると、通学時間などの時間的な制限もありますし、9年間一緒に過ごしてきた以外の新たな子どもが大勢いるということでその中に受け込めないなど、色んな面の問題点があり、陶町の保護者の方は、その辺りを考慮して欲しいというご意見でした。

委員：

先ほどのアンケートで、どちらでも良いが一番多かったのですが、正直、親の立場で言いますが、少子化でそういう状況に迫られ、自分ではどうしようもないという半分あきらめの心と、まさか違う学校とまたくっつかないだろうかという思いと、色々あってそういう意見が出たと思います。

前回、単クラスのメリット・デメリットがあり、デメリットを家で読み返してみました。

部活動について、チームが作れない等書いてありますが、はっきり言うと中学校に期待していません。クラブで家の子も野球やソフトをやっていましたが、先生もプライベートの時間であったり業務があったりするので、そこまで求めていません。本当にやらせたいのであれば別にクラブでしっかりやるので、部活のことは親が考えてやるので大丈夫かと思います。

P T A活動における保護者の負担が大きくなるとありましたが、子どもの負担が大事であり、親の負担は考えなくていいと思います。

今回、単クラスになることを逆に教育委員会はチャンスと考えていただき、色々な方法を使って子どもたちに勉強等していけるとと思います。

I C Tで皆タブレットを持っているので、単クラスだったとしてもインターネットを繋いで、スタディサプリとかで一連の先生たちの授業を見せて、終わった後に、例えば4校繋いで小テストをすると自分が瑞浪市でどれ位にいるかわかるし、クラスで何チームか作らせ、4校全部で競い合わせる等、単クラスだとしても色々やり方で、方法はあると思うので、安直に統合というのではなく、統合しない方向性も教育委員会では考えて欲しいと思います。

議長：

事務局に確認ですが、部活動のクラブ化のスケジュールや県教委から来ている方向性について説明をお願いします。

事務局：

県からは、令和7年度末を目標にということを言われていますが、今、瑞浪市においては、そこまで十分進んでいない状況です。現在保護者のクラブということで、保護者の方がクラブをやっています。この方が、地域のクラブ指導者としてやってくださるかどうかが、今後、市教委の方でも検討しながら相談していきたいと考えています。今年度、協議会を立ち上げつつ、来年度検討していくことをイメージしています。

議長：

有り難うございました。

2年後にはクラブも地域移行するとのことで、短いスパンですがこれから検討していくということです。先ほど委員さんがおっしゃったように、部活動だけでは時間的な問題もあり期待していない。本当にスポーツに打ち込もう思っている方は、クラブの方に力を入れていこうとのことで、デメリットの部活動については、単学級になっても大きな問題になると思われぬという意見でした。

学習についても意見をおっしゃっていましたが、学識経験者として参加しています元校長先生、参考になるご意見がありましたらお願いします。

委員：

今まで、1学年5クラスという規模の学校に勤務したこともありましたが、1学年2クラスという学校に勤務したこともありましたが。最後は、日吉小中学校で校長をしていましたが、単学級でした。

学習について言えば、確かに隣の学級と切磋琢磨して競う合う複数の学級がある学年はとても活発でした。日吉で初めて単学級の学校を経験しましたが、日吉は特殊な事情があり、小中併設校でした。小学校の隣に中学校があり、中学校の授業は本当に少人数でしたが、小学校の方が中学校の授業に行くなどして、子どもたちは刺激を受けて頑張って勉強して、学力が決して悪いわけではありませんでした。工夫すれば、単学級の子どもたちも、大変丁寧に個別に指導していただけるし、日吉は小中併設校でしたので、中学校の教員が小学校高学年の授業を担当する機会もあり、小中の交流が活発にあったこともあり、お互いうまくやっていく縦の関係が出来ていた、そんな経験もしてきましたので、それこそ工夫次第です。

委員：

単学級になったとしても、それなりの対応の仕方があると思っています。先ほどクラブの話がありましたが、これも地域の方で何とか子どもたちのクラブを見ていただくという方向性があると思いますし、授業においても非常勤の講師を雇っていただくこともあるし、兼務をかけて、他の学校からその時間に来て授業をしていただくというような対応の仕方によって、単学級になっても授業は成立すると思います。子どもたちが切磋琢磨とありますが、同学年だけでなく他学年と交流していく中で、色々な子どもたちとのコミュニケーションが取れて、意識が変わってくるように思います。

アイデア次第で色々活動できていくように思います。

議長：

有り難うございました。

今日の添付資料は、第2回の資料の抜粋でグラフだけですが、保護者の詳細な意見の中に、人間関係がちょっと悪くなった時に、ずっと変わらないので、それが問題という意見がありました。その点はどうでしょう。

委員：

日吉小学校に勤務しており、幼稚園も小学校もで、9年間単学級、中学を入れると12年間単学級を過ごしている子どもたちがいました。確かに子どもたちの人間関係によって、非常に難しい部分も出てくると思います。それは、どうしようもないことなので、学校全体でその子、子どもたちを見ていくより手はないと思っています。

委員：

人数が少ないと1人1人が目立ってしまいます。教師の目も届いてしまって、問題が埋もれないというか、顕著に出てくるというケースは経験しています。大勢いればその中で紛れてしまうというか、埋もれてしまって分からなくなってしまうとか、静かに黙っていれば自分は色々な問題に巻き込まれないとか、そういうことは確かにあると思っていました。学校全体で子どもたちを見ていく、いかに手を打って子どもたちを鍛えていく、育てていくという部分が必要になるわけで、それは大勢であっても少なくとも同じ事で、子どもたちにとってどうすることが1番いいことなのかをみんなで考えていくことが1番大事だと思います。

議長：

有り難うございました。

単学級でも複数学級でも、そういった問題が起きた場合は、学校全体で見守っていく。逆に単学級の方が目が届き、サポートがしやすいといった面もあるかと思いますが、PTAとしてはご意見はいかがでしょうか。

委員：

子どもたちが混乱するより、メリットをなるべく伸ばすという形で、単学級、現状維持で進めていかれたほうが良いと思います。

今後また大きな学区の編成なり、今後の課題として捉えていくという形でいいと思います。

委員：

日吉の子どもたちは、瑞浪北中に統合したわけですが、大きな学校に行くことをものすごく楽しみにしていました。ずっと小さいころから同じ集団で来て、違う大きな集団の中に入るのは不安というのは大人の間感ですが、子どもたちは決してそういうことばかりではありません。子どもは本当に無限の可能性があるので、色々なことと関りながら、それを喜びにして育っていくというところもあると思います。

単学級、統合が良くないという問題だけでなく、子どもや親にとって本当にどうすることが1番いいのかを皆さんで考えていくしかないと思います。

議長：

有り難うございました。

単学級のメリット・デメリット、逆に大きい学校でもそういったメリット・デメリットがそれぞれあり、子どもに対して、保護者や学校の目、温かい見守りによって、そういったことを解決するということが大事で、あまり単学級と複数学級に拘らないというご意見でよろしいですね。

その辺を前回、小学校に関しては昨年度、意見を交わしてきて、ある程度方向性が出てきた気がします。今回の審議会では、当面瑞浪南中学校については、単学級で継続していく方向で答えを出してはどうかと、皆さんの意見を伺って思いましたが、それについて意見があれば伺いたいと思います。

委員：

自分の経歴から考えて発言させていただきます。令和11年度から単学級になった場合でも30名程の生徒さんがみえることから、人数的に言って単学級で問題はないと思います。私は単学級の学校の教員を複数経験していましたし、複式の学校も経験しています。男子10名、女子10名の20名1クラスを受け持ちましたが、子どもたち自身は非常に活力がありました。問題点として、サッカー等の体育系で人数がいるものは、体力差や能力差があり、チーム編成の難しさがありましたが、それをそのまま捉えてしまう必要はありません。皆さんも子どもの頃にハンドベース等をされた経験があったと思いますが、集まった人数に合わせてポジションを決め、柔軟にゲームを楽しんでいたと思います。これは軽スポーツの考え方によく似ていると思います。皆ができるようにしていくためにどうしていくか。その部分に学ぶ知恵や生きていく知恵があり、小さい、人数の少ない学校の方こそ工夫していくという可能性を秘めていると思いました。複式を持った時には、渡りで先生が付けられない部分はや

むをえなかったが、先生が付けない分、子ども同士が学ぶ力をつけます。グループで話し合っていく力を付けていくことが本当に大事なことであり、単に知識を受け継ぐことだけではなく、人との関りを学ぶ力を身に付けていくことが一番必要です。複式で、先生がみえない時間は、本来必要な姿に近づくチャンスだと思っていました。学校が一番やるべきことは、子どもたちに学ぶ力を身に付けさせることで、知識を身に付けさせることだけではないと思っています。

議長：

ご意見有難うございました。

単学級の経験、複式学級の経験から貴重な意見を伺えました。やはり、単学級や複式学級でいっても子どもたち自身が学ぶ力を付けてくれていけば、どこに行っても学力をつける力が付けていけるというご意見でした。

こうした意見を踏まえて今回の審議会では、当面、瑞浪南中学校については単学級で維持していく方向で答申に盛り込みたいと思いますが、他にご意見はありますか。

委員：

別の話になりますが、行政として人口を増やす動きがみえてきません。大湫では、転入対策委員会で他地区、市外、県外から子どもたち、親子、家族を取り込んで小中学校の人数を増やす取り組みをしていますが、実際は急に人が増えることはないと思いますが、そういう努力もしていかなくてはいけないと思いますし、行政としても何か手を打っていただきたいと思います。それが、加速度的に進めば、複式学級や単学級の問題もクリアになっていくと期待しています。各地区でも転入対策をしっかりとやっていただきたいと思います。

議長：

ご意見有難うございました。

前回の会議のご意見でもありました、瑞浪市の人口減少はどんどん進んでおり、やはりこのままの状態ですとというわけにはいかないというのも確かです。いずれは中学校については2校ということも仕方がない状況になってくるのではというご意見もいただいています。この問題に関しては、検討をこれで終わるのではなく、今後も継続して考えていくことが必要です。その際には再度、学区制審議会を立ち上げ検討していくこととなるかと思っています。

会議の中で、検討が必要になるのではないかという生徒数のラインが出せないかというご意見もあったと思いますが、それもなかなか難しいとのことでした。

その時期の目安として、学校施設の建て替え更新ということもあると思います。現状の中学校、瑞浪北中学校は新しい校舎ですが、他の瑞浪中学校、瑞浪南中学校の今後の整備の計画はどのようになっているのでしょうか。

事務局より第1回資料4の説明。

(瑞浪中学校、瑞浪南中学校の改修予定、更新目途について)

議長：

2校のうち、先に建設された瑞浪中学校が、現在改修の準備を進めており、建築後60年を迎えるのが令和30年度とのことです。建て替えに向けて、どういう中学校にしていくのか、それを検討していく際に、市全体の学校の在り方について合わせて検討していくというのが一つの案と思います。

瑞浪南中学校の単学級が令和11年から始まり、単学級の問題がないかを確認し、おおむね令和15年度年から20年度の間で再度検討し、問題があるようでしたら、そこで新たな学区制審議会を立ち上げる等の検討ができると思います。これについては、みなさんいかがでしょうか。

意見なし

議長：

最後に、昨年度、小学校の方向性を出した際に、答申に盛り込む付帯意見として、まとめさせていただきましたが、中学校についても答申書に盛り込む市に対する要望等のご意見をいただき、反映させていきたいと思っております。

小学校の際は、1つ目として、地域や保護者の意見を継続的にうかがい、複式学級を見直すべきとの意見が多くなった場合は、再度審議会を立ち上げ検討する。2つ目に、市の人口減少対策の実施と地域でも市と連携した移住の取組を検討していくこと。3つ目に教育委員会として市内平等な教育がいきわたるよう予算確保に努めること。この3点を審議会意見として付け加えることとしました。

中学校の問題に関しても共通する部分が多いかと思いますが、何かご意見があれば伺いたいと思っております。

委員：

瑞浪南中学校の単学級については仕方がないことで、受け入れないといけないことだと思っています。最近、コミュニティ・スクール立ち上げの準備をしています。来年度から、瑞浪南中学校のコミュニティ・スクールが発足する関係で、陶と稲津の連携が強くなり、子どもに対する見方も変わってくると思っています。

す。地域と子どもたちの連携がうまくいくような対策を取っていただけると有り難いと思っています。もう一つ学力については、タブレットを大いに活用して、単学級になってもうまく行ける体制を整えていただけると有り難いと思っています。

議長：

ご意見有難うございました。

どこの学校に関してもコミュニティ・スクールが進んでいますが、地域の力を借りて学校運営をしていくということで、今後益々盛んになっていくと思いますが、PTA も一体となって進めて行くべきだと思いますがいかがですか。

委員：

瑞浪南中学校のコミュニティ・スクールの準備会に参加させていただいていますが、今後の少子化のキーになると思っています、あの組織を本気で取り組んでいけば、色々な可能性があると思っていますので、コミュニティ・スクールのことも盛り込んでいけば、この人口の流れを止められるのではないかと考えています。

議長：

陶町と稲津町の連携で、コミュニティ・スクールを通じて今後盛り上げていこうという、明るい兆しが見えますか。

委員：

陶と稲津という垣根を取っ払って、陶でも稲津でも行事の際は瑞浪南中学校の生徒として受け入れを考えています。

もう一つは、町外へ出ていく人を少なくしたいと考え、稲津でも若い人の意見を聞きながら、どうしたら稲津の町から出ていかなくできるのか、地域の計画の中でも盛り込んでいこうと考えていますので、そういったことも含めて、中学校と連携を取っていければと思っています。

議長：

ご意見有難うございました。

他に何かあれば伺いたいと思います。

委員：

明世小学校もコミュニティ・スクールが進んでいます。地域の方が支えてくだ

さって、活動が進んで有り難く思っています。

明世地区のまちづくりが中心にコミュニティ・スクールを進めて行くと、明世地区の方への働きかけが多くなってしまいます。月吉や和合地区の方たちも取り入れる体制を取りました。学区制の審議も必要ですが、行政がまちづくり等の組織の再編やあり方を考えていく時もあるのかと思いました。

明世小学校の子どもたちを通じて顔見知りになり、地区を超えた繋がりの方が出来ていけばいいと思っています。

議長：

ご意見有難うございました。

共通して言えるのは、コミュニティ・スクールを核にして盛り上げていこうという流れができるのではないかという希望が持たれます。

委員：

現状通っている生徒の皆さんや保護者の皆さんにとって有益な方たちになればよいと思います。今回は、統合しないという方向性で進めて問題ないと思います。

議長：

ご意見有難うございました。

本日頂いた意見をまとめ、次回の審議会では、答申案について意見をいただきたいと思いますが、事務局はよろしいでしょうか。

委員：

平成28年に南中学校ができた時に、その前の学区制審議で単学級になる予想はしていませんでしたか。

山県市に山県学園構想があり、合同で授業を受けたりしています。瑞浪でも一度考えてみてください。

美濃市は地区割を撤廃して、選択制で学校に行けるようになりましたが、教育委員会ではシュミレーションしましたか。多分そうすると、学園台の方が瑞浪中学校、瑞浪中学校に行かれるようになり、学校がパンクすると思います。そうすると、学校を分割するという問題も出てくると思います。一度シュミレーションしていただいて、どうなるか考えてください。

議長：

事務局、今の3点についてどうですか。

事務局：

有難うございます。

山口市と美濃市の教育長に、現在の状況を確認しているところです。今後、瑞浪市に適しているかどうかを含めて検討させていただきたいと思います。

議長：

瑞浪南中学校の統合の時の審議会では、ここまでの推定が難しかったと思います。人口動向で見ていきますので、その先に生まれる子の数の推測は難しく、単学級の予想はできませんでした。同様に、令和 15 年から令和 20 年になると状況が変わっているかもしれないので、その時に問題があれば新たに学区制審議会を立ち上げて検討していきたいと思います。

個人的な意見ですが、美濃市の選択制について、今後うまくいけばいいですが、色んな問題点も出てくるかと思います。子ども会や学校ごとの人数の差等の弊害も無きにしも非ずで、難しい面もあると思います。濃南小中学校も特別学区で校区外からも入学できていますが、今、2、3 名です。完全自由化は難しいと個人的には思います。

これをもちまして、第 5 回瑞浪市学区制審議会の議事を終了します。

進行を事務局にお返しします。

事務局：

有難うございました。

次回、答申案作成の上、会議に諮り確定をさせていただきます。

次回の審議会は、11 月頃の開催を予定させていただきたいと考えています。

後日日程調整させていただきますのでよろしくお願いします。

これにて第 5 回瑞浪市学区制審議会を閉会します。有難うございました。